

ジプロピレングリコール (DPG)

版番号 4.3

改訂日 2022. 02. 17

印刷日 2022. 09. 03

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : ジプロピレングリコール (DPG)
製品コード : U1521
CAS番号 : 25265-71-8
他の特定手段 : DPG; Oxydipropanol

化審法 (ENCS)/安衛法 (ISHL) 番号 : 2-413 (CAS: 25265-71-8)

供給者情報

供給者の会社名称、住所及び電話番号 :
SHELL EASTERN CHEMICALS (S)
A REGISTERED BUSINESS OF SHELL EASTERN
TRADING (PTE) LTD (UEN:198902087C)
9 North Buona Vista Drive , #07-01
The Metropolis Tower 1
Singapore 138588
Singapore
電話番号 : +65 6384 8737 (Customer Service Centre)
FAX番号 : +65 6384 8454 (Customer Service Centre)
SDSに関する問い合わせ先 :
緊急連絡電話番号 : +65 6542 9595 (Alert SGS)

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 : 不飽和ポリエステル樹脂並びに安息香酸エステル系可 Y 剤の製造用に DPG が 使用される。、 化学的利用
使用上の制限 : 本文書に記載されている助言は、初めに提供された製品だけのものです。その他の誘導体化学品は、異なる性状と危険有害性があります。それらの安全な取扱い法と利用法に関する助言を求める必要があります。、食品に直接添加しないでください。

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

現在入手可能なデータによると、この物質／混合物は分類基準を満たしていません。

ジプロピレングリコール
(DPG)

版番号 4.3

改訂日 2022. 02. 17

印刷日 2022. 09. 03

GHSラベル要素

- 絵表示又はシンボル : 危険記号は不要である。
- 注意喚起語 : なし
- 危険有害性情報 : 物理化学的危険性 :
GHS分類基準では物理化学的危険性があるとは区分されません。
健康有害性 :
GHS分類基準では健康有害性に該当せず。
環境有害性 :
GHSの基準では環境障害を及ぼす物質として分類されていない。
- 注意書き :
- 安全対策:**
注意喚起語なし。
- 応急措置:**
注意喚起語なし。
- 保管:**
注意喚起語なし。
- 廃棄:**
注意喚起語なし。

GHS分類に該当しない他の危険有害性

引火性と分類されないが、燃焼する。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 化学物質

危険有害成分

化学名又は一般名	CAS番号	分類	含有量 (% w/w)
Dipropylene glycol	25265-71-8		<= 100

ジプロピレングリコール (DPG)

版番号 4.3

改訂日 2022. 02. 17

印刷日 2022. 09. 03

4. 応急措置

- | | |
|-----------------------|--|
| 一般的アドバイス | : 通常条件での使用の場合、健康上有害であると思われる。 |
| 吸入した場合 | : 通常の使用条件下では治療は必要ありません。
症状が続く場合は、医師に相談すること。 |
| 皮膚に付着した場合 | : 汚染された衣服を脱ぐこと。暴露面を水で洗い流し、その後、可能なら石鹸で洗うこと。
持続的な刺激が生じた場合、治療を受けること。 |
| 眼に入った場合 | : 大量の水で眼を洗い流してください。
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
持続的な刺激が生じた場合、治療を受けること。 |
| 飲み込んだ場合 | : 飲み込んだ量が多くなければ、一般には治療不要であるが、
医師の診察を受けること。 |
| 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 | : 通常の使用条件下では、吸入の危険性があるとは考えられません。
考えられる呼吸刺激の兆候や症状には、一時的な鼻や喉の灼熱感、咳、呼吸困難などが含まれることがあります。

通常の使用条件下では特別な危険性はない。
皮膚炎の兆候および症状には灼熱感、赤み、腫れなどがある。

通常の使用条件下では特別な危険性はない。
眼刺激の兆候や症状には、薬傷感、発赤、腫大、および／または不鮮明な視覚が含まれる。

通常の使用条件下では特別な危険性はない。
摂取すると、吐き気、嘔吐、または下痢が生じる恐れがあります。 |
| 応急措置をする者の保護 | : 救急処置を行う場合は、事故や怪我、周囲の環境に応じて個人用保護具を必ず着用してください。 |
| 医師に対する特別な注意事項 | : 医師または毒物管理センターに電話し、指示を求めてください。
徴候にしたがって治療する。著しい過剰曝露の場合は、肝臓、腎臓および眼機能検査が望ましい。このような事故の記録は、将来の参考のために保管する。 |

ジプロピレングリコール (DPG)

版番号 4.3

改訂日 2022. 02. 17

印刷日 2022. 09. 03

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 耐アルコール性泡消火剤、散水または噴霧。小規模な火事にだけ、ドライ粉末消火薬剤、二酸化炭素、砂または土の使用可。
- 使ってはならない消火剤 : ジェット水を使用しないこと。
- 特有の危険有害性 : 予熱しない限り、物質は燃焼しない。
不完全燃焼が起こると、一酸化炭素が発生しうる。
火災による熱にさらされた容器は大量の水で冷却する必要がある。
- 特有の消火方法 : 化学物質の火災に対する標準の手順。
重要でない関係者以外のすべての人員を避難させること。
水を噴霧して隣接の容器を冷却し続けること。
- 消火を行う者の保護 : 化学的耐性のある手袋などの適切な保護具を着用し、物質の流出による広範囲に及ぶ接触が予想される場合には化学的耐性のある衣服も着用してください。密閉空間で火気に接近する際は、自給式呼吸器を着用してください。関連基準（欧州の場合：EN469）に基づいて承認された消防服を選択してください。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 関連する国内及び国際法規を遵守すること。
一般市民または環境への曝露が起こるか、或いは起こりそうな場合は、行政関係機関に通知する。
流出が著しく回収できない場合は、地方自治体に通報する。
: 皮膚、目、衣服との接触を避けること。
- 環境に対する注意事項 : 砂、土、または他の適切な障壁を用いて、拡散、または下水管、排水溝または河川への拡散・流入を防ぐ。
環境汚染を避けるために適切な封じ込めを使用する。
汚染領域を完全に換気する。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 残留物の吐出による流出を抑制し、適切に廃棄する。粘土、砂、またはその他の適切な吸収性物質を用いて残留物を吸い取る。
液体の流出量が少ない場合は（ドラム缶1缶未満）、回収または安全な廃棄を行うため、ラベルを貼付した密閉式の製品コンテナへ機械的手段で運搬して、回収または安全な廃棄を行うこと。残留物は蒸発させるか、適切な吸収剤に吸収させ、

ジプロピレングリコール (DPG)

版番号 4.3

改訂日 2022. 02. 17

印刷日 2022. 09. 03

安全に処分すること。汚染した土壌は除去し、安全に処分すること。

液体の流出量が多い場合は(ドラム缶2缶以上)、バキュームカーなど機械的な手段で再利用タンクに運搬して、回収または安全な廃棄を行うこと。残留物を水で洗い流さないこと。そのまま汚水として扱うこと。残留物は蒸発させるか、適切な吸収剤に吸収させ、安全に処分すること。汚染した土壌は除去し、安全に処分すること。

追加アドバイス

- ： 保護具の選択についての指針は、この製品安全データシート（SDS）の第8項を参照すること
- 漏洩物質の廃棄に関するガイダンスについては、このSDSの第13項を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- ： 蒸気の吸入や物質との接触を避けること。換気が十分になされている場所でのみ使用すること。取り扱い後は十分に手洗いすること。保護具の選択についての指針は、この製品安全データシート（SDS）の8章を参照すること。
- この物質の安全な取り扱い、保管および廃棄を適切に行うための管理方法を決定する際、支援材料として現地環境のリスク評価へ入力するデータとして、このデータシートの情報を利用する。
- 取り扱い並びに貯蔵施設に関し、地域の全規制に準拠していることを確認する。

安全取扱注意事項

- ： 作業場全域で局所排気装置を使用する。
- 十分に換気された場所で注意し、容器を取り扱い、開けること。
- 下水管に流さないこと。
- ドラム缶内の製品を取扱う際は、安全な履物を着用し、適切な取扱器具を使用する。
- 操作温度。
- 常温

顔面の保護具

- ： 材料取扱い時に飛沫が眼に入る可能性がある場合には眼用の保護装具を用いることが推奨される。

衛生対策

- ： 食事、飲用、喫煙、トイレ使用前に手を洗う。
- 再使用の前に、汚染された衣類を洗濯すること。

接触回避などを記載する

- ： 強酸化剤。
- 強酸。

ジプロピレングリコール (DPG)

版番号 4.3

改訂日 2022. 02. 17

印刷日 2022. 09. 03

強塩基。

製品輸送 : 使用しないときは容器を密閉しておく。ドラム容器を空にするために加圧しない。

保管

安全な保管条件 : 本製品の包装・保管に関する特定の法律の詳細は、15 項を参照してください。

その他のデータ : タンクは、洗浄して乾燥し、さびの無いようにする。
容器は、常に密栓する。
日光、着火源および他の熱源から離れ、十分に換気された防油堤の中で貯蔵すること。
貯蔵タンクの洗浄、点検および整備は専門家がを行い、厳密な手順の実施および注意を必要とする。
ドラム缶の積重ねは、最大で3缶の高さまでにする。
貯蔵温度 :
常温

安全な容器包装材料 : 適した材質: ステンレススチール, 軟鋼., 炭素スチール.
適さない材質: データ入手不可能。

容器に関する注意 : 容器は、空であっても、爆発性気体を含有する可能性がある。容器の上或いは近くで、切断したり、穴をあけたり、こすったり、溶接したり、同様な作業をしない。

特定の利用法 : 非該当

取り扱い並びに貯蔵施設に関し、地域の全規制に準拠していることを確認する。

8. ばく露防止及び保護措置

作業環境における成分別暴露限界/許容濃度

生物学的職業暴露限度

生物学的限度は指定されていない。

監視方法

職業暴露限度の遵守と曝露制御の妥当性を図るためには、作業者が呼吸する場所や一般的な職場の物質濃度をモニタリングする必要があると考えられる。一部の物質については、生物学的なモニタリングが適している場合もある。

検証済みの暴露測定方法は資格を有する人物が実施し、またサンプルの分析は認定を受けた研究

ジプロピレングリコール (DPG)

版番号 4.3

改訂日 2022. 02. 17

印刷日 2022. 09. 03

所で行う必要があります。

推奨するエアモニタリング法の情報源の例としては、下記に示されている。または製造元に連絡する。さらに国内規定の方法を利用する。

National Institute of Occupational Safety and Health (NIOSH), USA: Manual of Analytical Methods <http://www.cdc.gov/niosh/>

Occupational Safety and Health Administration (OSHA), USA: Sampling and Analytical Methods <http://www.osha.gov/>

Health and Safety Executive (HSE), UK: Methods for the Determination of Hazardous Substances <http://www.hse.gov.uk/>

Institut für Arbeitsschutz Deutschen Gesetzlichen Unfallversicherung (IFA), Germany. <http://www.dguv.de/inhalt/index.jsp>

L'Institut National de Recherche et de Sécurité, (INRS), France <http://www.inrs.fr/accueil>

設備対策

：製品を加熱するか、噴霧するか、または霧生成させる場合、空气中濃度を上昇させる潜在性が高い。
適切な換気を行って空气中濃度を抑えること。
必要な保護レベルと管理のタイプは、潜在的な曝露条件によって異なる。現地環境のリスク評価に基づいて管理方法を選択する。適切な方法には、以下のものがある。

一般情報：

素材の取扱い後や飲食・喫煙の前に手を洗うなど、常に身の回りの正しい衛生措置を実行するようにしてください。汚染物質を除去するため、作業衣や保護具は定期的に洗浄します。汚染され、かつ洗浄が不可能な衣類や履物は廃棄してください。適切な清掃管理を行ってください。

安全な取り扱いや制御装置のメンテナンスの手順を明確に定めてください。

本製品を用いた通常業務に伴う危険性とその管理手順について、作業員に対する教育およびトレーニングを実施してください。

暴露管理に用いる装置（個人用保護具や局所排気装置）が適切なものであるか、またこれらに対し適切なテストやメンテナンスが行われているか確認してください。

システムの慣らし運転や保守の前には、システムからすべての液体を排出させてください。

システムを液体を排出した状態に保ち、排出した液体はリサイクルあるいは廃棄まで密封できる保管容器に入れてください。

保護具

保護対策

保護具（PPE）は、推奨される国家規格を満たさなければならない。保護具（PPE）供給業者に問い合わせること。

ジプロピレングリコール (DPG)

版番号 4.3

改訂日 2022. 02. 17

印刷日 2022. 09. 03

呼吸用保護具	: 通常使用条件下では呼吸用保護具は不要である。 優良労働衛生規範に則り、物質を吸い込まないように予防措置をとること。
手の保護具 備考	: 製品に手を触れる可能性がある場合、関連する基準（たとえば欧州のEN374、米国のF739）で承認された、以下の素材で作られた手袋を使用することにより、適切な化学防護ができる。より長期間の保護：ニトリルゴム。偶発的な接触/飛沫防止：PVC、ネオプレンまたはニトリルゴム手袋。連続的に接触する場合は、破過時間が240分以上の手袋を着用してください。（破過時間が480分以上の手袋がある場合は、そちらを着用してください）。短時間/飛沫の保護に使用する場合も、上記の手袋を着用してください。ただし、この保護レベルを備えた手袋は入手できない可能性があるため、その場合は、適切なメンテナンスと交換が行われていれば、破過時間の短い手袋で代替することが可能です。手袋の耐薬品性は、素材の組成によるため、手袋の厚みから耐性の有無を的確に判断することはできません。手袋の厚みは、メーカーやモデルによって異なりますが、通常 0.35 mm 以上のものを着用してください。手袋の適合性および耐久性は、接触の頻度や期間、手袋の素材の耐薬品性、手袋の厚さ、使用者の器用さなどの利用状況により異なる。常に手袋販売業者の意見を求めること。汚染された手袋は交換すること。個人的衛生を維持することは、手の効果的なケアに重要な要素です。手袋は清潔な手に着用してください。手袋を使用したあとは、手は、洗浄して完全に乾燥させる必要があります。芳香剤を加えていないモイスチャライザーを使用することを推奨します。
眼、顔面の保護具	: 材料取扱い時に飛沫が眼に入る可能性がある場合には眼用の保護装具を用いることが推奨される。
皮膚及び身体の保護具	: 皮膚保護具は、標準的な作業着を超えたものは通常必要とされません 耐薬品性グローブの着用を奨励する。
衛生対策	: 食事、飲用、喫煙、トイレ使用前に手を洗う。 再使用の前に、汚染された衣類を洗濯すること。
環境における排出管理	
一般的アドバイス	: 蒸発物質を含む排気への放出に関しては、揮発性物質の排出規制に関する国内指針を遵守しなければならない。環境中への放出を最小限にしてください。地域の環境規制を確実に遵守するため、環境アセスメントを実施する必要があります。

ジプロピレングリコール
(DPG)

版番号 4.3

改訂日 2022. 02. 17

印刷日 2022. 09. 03

ります。
偶発的放出に対する措置については、6項 を参照してください。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体.
色	: 無色
臭い	: 無臭
臭いのしきい(閾)値	: データ入手不可能。
pH	: 7
融点/凝固点	: -20 ° C / -4 ° F
沸点／沸騰範囲	: 227 ° C / 441 ° F
引火点	: 130 ° C / 266 ° F 方法: ASTM D-93 / PMCC
蒸発速度	: データ入手不可能。
可燃性	
可燃性（固体、気体）	: 非該当
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	
爆発範囲の上限	: 12.6 % (V)
爆発範囲の下限	: 2.9 % (V)
蒸気圧	: 1.3 Pa (25 ° C / 77 ° F)
相対ガス密度	: 4.6 (20 ° C / 68 ° F)
密度及び／又は相対密度	
比重	: 1.023方法: ASTM D4052
密度	: 1.03 g/cm ³ (20 ° C / 68 ° F) 方法: ASTM D4052
溶解度	

ジプロピレングリコール
(DPG)

版番号 4.3

改訂日 2022. 02. 17

印刷日 2022. 09. 03

水溶性	: 完全混和性
n-オクタノール／水分配係数 (log 値)	: log Pow: 0. 462 (21. 7 ° C / 71. 1 ° F)
自然発火点	: 327 - 337 ° C / 621 - 639 ° F
分解温度	: データ入手不可能。
粘度	
粘性率(粘度)	: 116 mPa, s (25 ° C / 77 ° F) 方法: ASTM D445
動粘性率(動粘度)	: 118 mm ² /s (20 ° C / 68 ° F) 方法: ASTM D445
	32 mm ² /s (40 ° C / 104 ° F) 方法: ASTM D445
爆発特性	: 非該当
酸化特性	: データ入手不可能。
表面張力	: 71. 4 mN/m, 22 ° C / 72 ° F
導電度	: 導電率: > 10 000 pS/m 液体の温度や汚染物質の存在、帯電防止剤といった多数の要因が液体の電導性を大きく左右します。、この素材は、静電気を蓄積しやすい性質ではないと考えられます。
粒子特性 粒子サイズ	: データ入手不可能。
分子量	: 134. 2 g/mol

10. 安定性及び反応性

反応性	: この製品は、以下の項の記載内容以外の反応危険性は引き起こしません。
化学的安定性	: 保管条件等に従い処理および保管した場合、危険有害性反応は起こらないと考えられます 空気との接触で酸化する。

ジプロピレングリコール
(DPG)

版番号 4.3

改訂日 2022. 02. 17

印刷日 2022. 09. 03

危険有害反応可能性	: 知見なし。
避けるべき条件	: 極端な温度と直射日光。 製品は、静電気により発火しません。
混触危険物質	: 強酸化剤。 強酸。 強塩基。
危険有害な分解生成物	: 熱分解は使用状況に大きく左右される。この物質が燃焼または熱劣化や酸化劣化の影響を受けると、一酸化炭素、二酸化炭素、硫黄酸化物、および未同定の有機化合物などの空中を浮遊する固体、液体、気体の複合混合物が生成される。カルボニル誘導体およびジオキソラン誘導体を生成す ⁷ とがある。

11. 有害性情報

評価基準	: 情報は、製品試験および／または同種の製品および／または構成成分を基準としている。
可能性のある暴露経路の情報	: 以下の誤った摂取により曝露されるにも関わらず、皮膚及び目の接触が基本的 な曝露のルートである

急性毒性

製品:

急性毒性（経口）	: LD 50 ラット, オスおよびメス: > 5, 000 mg/kg 方法: US EPA 検査ガイドライン OPP 81-1 備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる
急性毒性（吸入）	: LC 50 ラット, オスおよびメス: > 2. 34 mg/l 曝露時間: 4 h 試験環境: エアゾール 方法: その他のガイドライン方式。 備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる
急性毒性（経皮）	: LD 50 ウサギ, オスおよびメス: > 5, 000 mg/kg 方法: その他のガイドライン方式。 備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる

成分:

Dipropylene glycol:

ジプロピレングリコール (DPG)

版番号 4.3

改訂日 2022.02.17

印刷日 2022.09.03

急性毒性（経口）	: LD 50 ラット, オスおよびメス: > 5,000 mg/kg 方法: US EPA 検査ガイドライン OPP 81-1 備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる
急性毒性（吸入）	: LC 50 ラット, オスおよびメス: > 2.34 mg/l 曝露時間: 4 h 試験環境: エアゾール 方法: その他のガイドライン方式。 備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる
急性毒性（経皮）	: LD 50 ウサギ, オスおよびメス: > 5,000 mg/kg 方法: その他のガイドライン方式。 備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる

皮膚腐食性／刺激性

製品:

種: ウサギ
方法: その他のガイドライン方式。
備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる

成分:

Dipropylene glycol:

種: ウサギ
方法: その他のガイドライン方式。
備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

製品:

種: ウサギ
方法: その他のガイドライン方式。
備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる

成分:

Dipropylene glycol:

種: ウサギ
方法: その他のガイドライン方式。
備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる

呼吸器感作性又は皮膚感作性

製品:

ジプロピレングリコール (DPG)

版番号 4.3

改訂日 2022. 02. 17

印刷日 2022. 09. 03

種: モルモット
方法: その他のガイドライン方式。
備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる

成分:

Dipropylene glycol:

種: モルモット
方法: その他のガイドライン方式。
備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる

生殖細胞変異原性

製品:

in vitro での遺伝毒性 : 方法: 容認可能な非標準的方式。
備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる
: 方法: OECDテストガイドライン476と同等または類似のテスト
備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる
: テスト種: マウス方法: OECD 試験ガイドライン 474
備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる

成分:

Dipropylene glycol:

in vitro での遺伝毒性 : 方法: 容認可能な非標準的方式。
備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる
: 方法: OECDテストガイドライン476と同等または類似のテスト
備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる
: テスト種: マウス方法: OECD 試験ガイドライン 474
備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる

発がん性

製品:

種: マウス, (オスおよびメス)
投与経路: 経口
方法: 容認可能な非標準的方式。
備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる

成分:

Dipropylene glycol:

種: マウス, (オスおよびメス)
投与経路: 経口
方法: 容認可能な非標準的方式。
備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる

ジプロピレングリコール
(DPG)

版番号 4.3

改訂日 2022. 02. 17

印刷日 2022. 09. 03

材質	GHS/CLP 発がん性 分類
Dipropylene glycol	発癌性の分類なし

生殖毒性

製品:

種: マウス
性: オスおよびメス
投与経路: 経口

方法: 文献データ
備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる

胎児の発育への影響

種: ラット, メス
投与経路: 経口
方法: OECDテストガイドライン414と同等または類似のテスト
備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる
種: ウサギ, メス
投与経路: 経口
方法: OECDテストガイドライン414と同等または類似のテスト
備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる

成分:

Dipropylene glycol:

種: マウス
性: オスおよびメス
投与経路: 経口

方法: 文献データ
備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる

胎児の発育への影響

種: ラット, メス
投与経路: 経口
方法: OECDテストガイドライン414と同等または類似のテスト
備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる
種: ウサギ, メス
投与経路: 経口
方法: OECDテストガイドライン414と同等または類似のテスト
備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる

ジプロピレングリコール (DPG)

版番号 4.3

改訂日 2022. 02. 17

印刷日 2022. 09. 03

特定標的臓器毒性，単回ばく露

製品:

備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる

成分:

Dipropylene glycol:

備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる

特定標的臓器毒性，反復ばく露

製品:

備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる

成分:

Dipropylene glycol:

備考: 入手可能なデータによれば、区分外となる

反復投与毒性

製品:

ラット, オスおよびメス:

投与経路: 経口

方法: 容認可能な非標準的方式。

標的臓器: 特定標的臓器は認められない。

成分:

Dipropylene glycol:

ラット, オスおよびメス:

投与経路: 経口

方法: 容認可能な非標準的方式。

標的臓器: 特定標的臓器は認められない。

誤えん有害性

製品:

入手可能なデータによれば、区分外となる

成分:

Dipropylene glycol:

入手可能なデータによれば、区分外となる

ジプロピレングリコール (DPG)

版番号 4.3

改訂日 2022. 02. 17

印刷日 2022. 09. 03

詳細情報

製品:

備考: 各種規制の枠組みに応じた他の機関による分類が存在する可能性がある。

成分:

Dipropylene glycol:

備考: 各種規制の枠組みに応じた他の機関による分類が存在する可能性がある。

12. 環境影響情報

評価基準

: 本製品に関する生態毒性データは、不完全である。下記の情報は、構成成分の部分的情報と類似製品の生態毒性に基いている。

生態毒性

製品:

魚毒性 (急性毒性)

: LC50 (*Oryzias latipes* (和メダカ)): > 1,000 mg/l
曝露時間: 96 h
方法: OECD 試験ガイドライン 203
備考: 実質的に毒性はない:
LL/EL/IL50 >100 mg/l

甲殻類への毒性 (急性毒性)

: EC50 (*Daphnia magna* (オオミジンコ)): > 100 mg/l
曝露時間: 48 h
方法: OECD 試験ガイドライン 202
備考: 実質的に毒性はない:
LL/EL/IL50 >100 mg/l

藻/水生植物への毒性 (急性毒性)

: EC50 (*Desmodesmus subspicatus* (セネデスムス・サブスピカトウス)): > 100 mg/l
曝露時間: 72 h
方法: OECD 試験ガイドライン 201
備考: 実質的に毒性はない:
LL/EL/IL50 >100 mg/l

魚毒性 (慢性毒性)

: 慢性毒性値: 1,340 mg/l
曝露時間: 30 d
方法: 定量的構造活性相関 (QSAR) モデリングに基づく
備考: NOEC/NOEL > 100 mg/l

甲殻類への毒性 (慢性毒性)

: 慢性毒性値: 466 mg/l
曝露時間: 16 d
種: *Daphnia* (ミジンコ属)

ジプロピレングリコール (DPG)

版番号 4.3

改訂日 2022. 02. 17

印刷日 2022. 09. 03

方法: 定量的構造活性相関 (QSAR) モデリングに基づく

備考: NOEC/NOEL > 1.0 - <= 10 mg/l

微生物への毒性 (急性毒性) : EC10 (*Pseudomonas putida* (シュードモナス - プチダ)): >= 1,000 mg/l
 曝露時間: 18 h
 方法: OECDガイドライン209と同等または類似のテスト
 備考: 実質的に毒性はない :
 LL/EL/IL50 >100 mg/l

成分:

Dipropylene glycol :

魚毒性 (急性毒性) : LC50 (*Oryzias latipes* (和メダカ)): > 1,000 mg/l
 曝露時間: 96 h
 方法: OECD 試験ガイドライン 203
 備考: 実質的に毒性はない :
 LL/EL/IL50 >100 mg/l

甲殻類への毒性 (急性毒性) : EC50 (*Daphnia magna* (オオミジンコ)): > 100 mg/l
 曝露時間: 48 h
 方法: OECD 試験ガイドライン 202
 備考: 実質的に毒性はない :
 LL/EL/IL50 >100 mg/l

藻/水生植物への毒性 (急性毒性) : EC50 (*Desmodesmus subspicatus* (セネデスムス・サブスピカトウス)): > 100 mg/l
 曝露時間: 72 h
 方法: OECD 試験ガイドライン 201
 備考: 実質的に毒性はない :
 LL/EL/IL50 >100 mg/l

微生物への毒性 (急性毒性) : EC10 (*Pseudomonas putida* (シュードモナス - プチダ)): >= 1,000 mg/l
 曝露時間: 18 h
 方法: OECDガイドライン209と同等または類似のテスト
 備考: 実質的に毒性はない :
 LL/EL/IL50 >100 mg/l

魚毒性 (慢性毒性) : 慢性毒性値: 1,340 mg/l
 曝露時間: 30 d
 方法: 定量的構造活性相関 (QSAR) モデリングに基づく
 備考: NOEC/NOEL > 100 mg/l

甲殻類への毒性(慢性毒性) : 慢性毒性値: 466 mg/l
 曝露時間: 16 d
 種: *Daphnia* (ミジンコ属)

ジプロピレングリコール (DPG)

版番号 4.3

改訂日 2022. 02. 17

印刷日 2022. 09. 03

方法: 定量的構造活性相関 (QSAR) モデリングに基づく

備考: NOEC/NOEL > 1.0 - <= 10 mg/l

残留性・分解性

製品:

生分解性 : 生分解: 84.4 %
曝露時間: 28 d
方法: OECD 試験ガイドライン 301F
備考: 容易に生分解できる。

成分:

Dipropylene glycol :

生分解性 : 生分解: 84.4 %
曝露時間: 28 d
方法: OECD 試験ガイドライン 301F
備考: 容易に生分解できる。

生態蓄積性

製品:

生態蓄積性 : 種: Cyprinus carpio (コイ)
曝露時間: 42 d
生物濃縮因子 (BCF) : 0.3 - 4.6
方法: OECD 試験ガイドライン 305C
備考: 顕著な蓄積性はない。

n-オクタノール／水分配係数 : log Pow: 0.462 (21.7 ° C)
(log 値)

成分:

Dipropylene glycol :

生体蓄積性 : 種: Cyprinus carpio (コイ)
曝露時間: 42 d
生物濃縮因子 (BCF) : 0.3 - 4.6
方法: OECD 試験ガイドライン 305C
備考: 顕著な蓄積性はない。

土壌中の移動性

製品:

移動性 : 備考: 製品が土壌中に流出した場合、一つ又はそれ以上の成分が浸透し、又は浸透する可能性があり、地下水を汚染する可能性がある。

成分:

Dipropylene glycol :

移動性 : 備考: 製品が土壌中に流出した場合、一つ又はそれ以上の成分

ジプロピレングリコール (DPG)

版番号 4.3

改訂日 2022. 02. 17

印刷日 2022. 09. 03

が浸透し、又は浸透する可能性があり、地下水を汚染する可能性がある。

他の有害影響

データなし

オゾン層への有害性

非該当

13. 廃棄上の注意

廃棄方法

化学品（残余廃棄物）

： 出来れば、再生利用または再使用すること。
廃棄物排出者には、適用される規則に従って、適切に廃棄物を分類し、処分する方法を用いているかどうかを判断するため、生成された物質の毒性と物質特性を判断する責任がある。
回収または廃棄物処理のため全ての梱包材を取り除く^Aと。
廃棄物で土壌や地下水を汚染したり、環境を破壊したりしてはなりません。
タンクの水は、地表に放出して廃棄しないでくださいB廃棄すると、土壌と地下水を汚染します。
環境、下水管または水路へ廃棄しないこと。
漏出やタンク清掃から生じる廃棄物は、関連法規を遵守し、免許を有する専門の収集業者または請負業者に依頼することが好ましく、適切に処分してください。収集業者または請負業者が適格性を有することを事前に確認してください。

廃棄処分は、地域、国、地方の適切な法律及び条例に従うべきである。
現地の条例は、地域又は国の必要条件よりも厳しいこともあり、遵守しなければならない。

MARPOL – 船舶による汚染の防止のための国際条約（MARPOL 73/78）は、船舶からの汚染物質を抑制する技術的側面を提供します。

当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で、かつ

： 現行規定に従って廃棄する。公認の廃棄物収集業者または契約業者に引き渡すのが望ましい。廃棄物収集業者または契約業者は、資格を持つことを事前に証明しなければならない。

ジプロピレングリコール
(DPG)

版番号 4.3

改訂日 2022. 02. 17

印刷日 2022. 09. 03

14. 輸送上の注意

国内規制がある場合の規制情報

国の特定の法規制は、項目15を参照する。

国際規制

ADR

危険物として規制されていない

IATA-DGR

危険物として規制されていない

IMDG-Code

危険物として規制されていない

MARPOL 73/78附属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質（該当・非該当）

汚染カテゴリ : Z
船種 : 3
製品名 : ジプロピレングリコール

特別の安全対策

備考 : 特別な注意事項：使用者が知っておくべき特別な注意事項
や、輸送に関して法令順守が必要な事項については、第7項
の取扱及び保管上の注意を参照のこと。

追加情報

: 本製品は、窒素ブランケットにより輸送することができる。
窒素は無臭で透明な気体である。窒素濃度の高い大気への暴露は、酸素の供給を排除し、窒息または死の原因になることがある。閉鎖空間に入る人は、安全措置を厳重に守らなければならない。

15. 適用法令

関連法規

消防法

第4類, 第三石油類

化審法

優先評価化学物質

化学名	番号
ジプロピレングリコール	240
1, 1' -オキシジ（プロパン-2-オール）	240

ジプロピレングリコール (DPG)

版番号 4.3

改訂日 2022.02.17

印刷日 2022.09.03

労働安全衛生法

名称等を表示すべき危険物及び有害物

非該当

名称等を通知すべき危険物及び有害物

非該当

製造の許可を受けるべき有害物

非該当

特定化学物質障害予防規則

非該当

労働安全衛生法施行令 - 別表第一（危険物）

非該当

毒物及び劇物取締法

非該当

化学物質排出把握管理促進法

非該当

船舶安全法

非該当

高圧ガス保安法

非該当

航空法

非該当

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律

ばら積み輸送 : (Z 類)

この製品の成分について各国インベントリーへの記載情報：

AIIC : 収載

DSL : 収載

IECSC : 収載

ENCS : 収載

KECI : 収載

NZIoC : 収載

PICCS : 収載

ジプロピレングリコール
(DPG)

版番号 4.3

改訂日 2022. 02. 17

印刷日 2022. 09. 03

TSCA : 収載

TCSI : 収載

16. その他の情報

略語および頭字語

AIIC - オーストラリアの工業化学品インベントリ; ANTT - ブラジル国家輸送機関; ASTM - 米国材料試験協会; bw - 体重; CMR - 発ガン性、変異原性、生殖毒性があるとされる物質; DIN - ドイツ規格協会基準; DSL - 国内物質リスト (カナダ); ECx - 任意の X%の反応を及ぼすと考えられる濃度; ELx - 任意の X%の反応を及ぼすと考えられる負荷割合; EmS - 緊急時のスケジュール; ENCS - 化審法の既存化学物質リスト; ErCx - 任意の X%の反応を及ぼすと考えられる成長率; ERG - 緊急対応の手引き; GHS - 世界調和システム; GLP - 試験実施規範; IARC - 国際がん研究機関; IATA - 国際航空運送協会; IBC - 危険化学品のばら積運送のための船舶の構造及び設備に関する国際規則; IC50 - 50%阻害濃度; ICAO - 国際民間航空機関; IECSC - 中国現有化学物質名録; IMDG - 国際海上危険物規程; IMO - 国際海事機関; ISHL - 労働安全衛生法 (日本); ISO - 国際標準化機構; KECI - 韓国既存化学物質名録; LC50 - 50%致死濃度; LD50 - 50%致死量 (半数致死量); MARPOL - 船舶による汚染の防止のための国際条約; n. o. s. - 他に品名が明示されているものを除く; Nch - チリ規則; NO(A)EC - 無有害性影響濃度; NO(A)EL - 無有害性影響レベル; NOELR - 無有害性影響負荷割合; NOM - メキシコ公式規則; NTP - 米国国家毒性プログラム; NZIoC - ニュージーランド化学物質台帳; OECD - 経済協力開発機構; OPPTS - 化学物質安全性・公害防止局; PBT - 難分解性・生体蓄積性・有毒性(物質); PICCS - フィリピン化学物質インベントリ; (Q)SAR - (定量的) 構造活性相関; REACH - 化学物質の登録、評価、認可および登録 (REACH) に関する規則 (EC) No 1907/2006; SADT - 自己加速分解温度; SDS - 安全データシート; TECI - タイに既存の化学物質のインベントリ; TCSI - 台湾化学物質インベントリ; TDG - 危険物輸送; TSCA - 有害物質規制法(米国); UN - 国連; UNRTDG - 国際連合危険物輸送勧告; vPvB - 非常に難分解及び非常に高蓄積性; WHMIS - 作業場危険有害性物質情報システム

詳細情報

研修アドバイス : 操作員に十分な情報、指示、および教育を与える。

その他の情報 : 左欄外の垂直バー (|) は、前バージョンの修正を示す

引用文献 : 引用データは、1 つまたは複数の情報源から提供されたものですが、必ずしもこれらに限定されません (例、毒物学データは Shell Health Service、原料サプライヤによるデータ、CONCAWE、EU IUCLID データベース、EC 1272 規則から引用)。

ジプロピレングリコール (DPG)

版番号 4.3

改訂日 2022. 02. 17

印刷日 2022. 09. 03

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報にもとづき、当該製品の安全な取り扱い、使用、処理、保管、輸送、廃棄、漏洩時の処理等のために作成されたものですが、記載されている情報はいかなる保証をするものではなく、品質を特定するものでもありません。また、この SDS のデータはここで指定された物質についてのみのものであり、指定されていない工程での使用や、指定されていない材料と組み合わせた使用に関しては有効ではありません。

JP / JA